

対象年度		令和 5年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		施設等整備事業（消防団施設）						予算事業名		施設等整備事業費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	消防組織法、消防法				
			09	01	03	20	経常経費						
総合計画体系	住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分	主要事業					
	安全に暮らせるまちづくり												
	消防体制の強化						担当課係等	防災安全課 消防防災係					
事業期間		継続 （平成27年度～ 年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
消防団へ配備している車両（ポンプ自動車10車両、指令車、広報車）を順次更新することにより、地域消防力の強化と火災その他の災害防御体制の強化を図る。 消防水利の標識の整備により、火災活動時の迅速な水利確保を図る。							点検時にポンプ機能の低下に対する指摘や、出動の際に不具合発生があると、活動に支障が出る。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
・ 老朽化した消防車両（車齢15年を超過するもの）の更新 ・ 消防水利標識等の改修 ・ 消火栓設置及び維持管理の負担							消防車両、結城市域の消防水利標識等						
							【事業をとりまく環境の変化】 ・ 消防団員の中にはAT限定の運転免許取得者が増加傾向にある。 ・ 今後、新運転免許制度による運転免許取得者が増え、現行の5 t ポンプ車を運転できる団員が減少するため、新運転免許制度の普通自動車免許で運転可能な3.5 t ポンプ車を導入していく。						
【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】					
・ 第4分団車両（平成17年式） ・ 消防水利標識等改修 ・ 消火栓設置及び維持管理の負担				・ 第3分団車両（平成18年式） ・ 消防水利標識等改修 ・ 消火栓設置及び維持管理の負担				・ 第8分団車両（平成21年式） ・ 消防水利標識等改修 ・ 消火栓設置及び維持管理の負担					
■事業費													
			R03年度		R04年度								
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	22,300						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	7,275	11,048						
歳 入 計（千 円）			7,275		33,348								
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）		金額（千円）		金額（千円）								
	11	役務費	0		255								
	14	工事請負費	1,377		1,974								
	17	備品購入費	0		21,714								
	18	負担金補助及び交付金	5,898		9,372								
	26	公課費	0		33								
歳 出 計（千 円）（A）			7,275		33,348								
伸 び 率（％）					358.39								
備 考	総合計画74ページ 予算書165ページ												

令和 3年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R03年度	R04年度	R05年度
活動 指標	消防車両の更新	台	目標	2.00	3.00	2.00
	老朽化（車齢15年超）消防車両		実績	2.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	更新車両数	台	目標	1.00	1.00	1.00
	新規消防車両		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	水火災を主とした災害発生時に使用する車両であるため、計画的な更新が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	消防施設等の管理は、市が行うべきものであり妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	防災力の充実・強化のため、ポンプ車の更新及び消防施設等の管理を行う必要がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	車両には消防活動に必要な装備を搭載しているが、費用対効果に見合っているか検討課題である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市民の生命と財産を守るために消防団が使用する車両であり、偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	車両更新により、消防活動における安全性、確実性が向上している。 また、今後3.5tポンプ車を導入していくことで、新運転免許制度にも対応していく。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	順次更新をすることにより、耐用年数を大幅に経過することもなく、車両の故障も少なくなっている。 消防水利の標識も改修できており、消防活動に支障をきたしていない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
緊急車両のため、耐用年数を経過した車両は更新が必須である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
3.5tポンプ車を導入していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ■拡充（人・モノ・カネ等の拡充） □改善改革しながら継続 □現状のまま継続（改善・改革なし） □統合・新規事業への展開 □縮小 □休止 □廃止・終了 □予定どおりの要求 □一部改善の上要求 □今回は見送り □その他の処置	
方向性の具体的内容 消火栓等の設置及び管理、消防ポンプ車の更新は、消防活動を行う上で欠かせないことから、法律の改正に対応した維持管理及び更新を行っていく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） □拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ■改善改革しながら継続 □現状のまま継続（改善・改革なし） □統合・新規事業への展開 □縮小 □休止 □廃止・終了 □予定どおりの要求 □一部改善の上要求 □今回は見送り □その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。	